



# 第38期 中間株主通信

2015年10月1日～2016年3月31日

株式会社 夢真ホールディングス  
[証券コード:2362]

トップインタビュー 03

**人材の採用と育成をさらに強化し  
中期経営計画を着実に遂行**

**上半期の事業の概況と  
下半期の見通しについて 05**

トピックス 06

**アジアの優良企業200社リスト選出の  
表彰式に出席**

連結財務諸表(要旨) 07

株式の状況 09

会社の概要 / IR伝言板 10

# 人と人とのめぐり合いでみんなの夢を真にする会社

当社の社名「夢真」には、読んで字のごとく、「夢を真（まこと）にする」という意味が込められています。人と人とは他人に思えても必ずどこかで繋がっています。人と人がめぐり合うことで道は開け、可能性は無限に広がっていきます。当社は、株主さま、お客さま、従業員、そして夢真グループにかかわるすべての方々の可能性を追求し、その夢を真にすることをミッションと考えています。



透明性のある企業経営を実践し、健全な成長・安定した還元に努めます。



独自の研修プログラムで、ひとりひとりの成長を援助します。

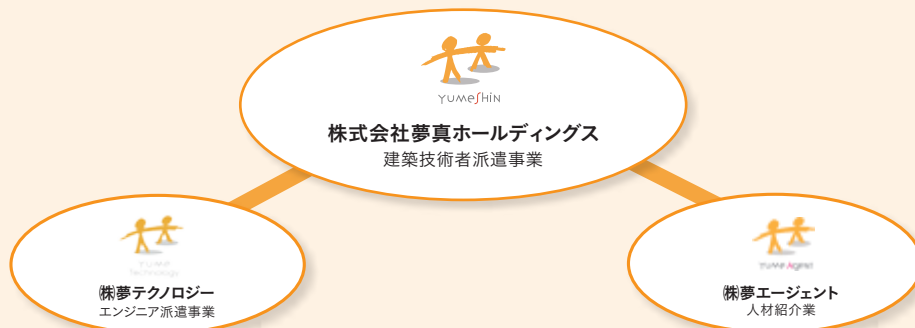


必要な時に・必要な人数・必要な場所に・必要なスキルを持った人材を提供します。



新卒・若手の人材を積極的に採用し雇用の創造に努めます。

## ■夢真ホールディングスグループの事業領域



## ■事業ポートフォリオの再編 2015年9月期第3四半期以降に実施した事業ポートフォリオの見直しにより、高収益型ビジネスモデルへシフト

**リスク分散型**

事業の多角化  
ストック型ビジネスで収益安定

- 建築技術者派遣
- エンジニア派遣
- 子育て支援
- 介護
- 総合建設



**高収益型**

得意分野・強みに集中  
高付加価値の人材ビジネスに特化

- 建築技術者派遣
- エンジニア派遣
- 人材紹介(2015年6月よりスタート)

## 夢真グループとしての結束力を高め、 事業基盤のさらなる拡充を目指します



第38期第2四半期累計期間（2015年10月1日から2016年3月31日まで）の中間株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

まずは、熊本県熊本地方を震源とする地震により被災された方々、その関係者の皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

当社が主な事業領域とする建設業界は、バブル経済の崩壊とともに受注が激減し、1990年代後半から建設業の就業者数は、減少の一途を辿ることとなります。現在では、ピーク時の4分の1の人員が建設業から流出し、しかも新卒の採用をほとんど行ってこなかったため、就業者の高齢化という課題が生じています。2010年度以降、国内の建設投資額が回復基調となり、都心の再開発案件が目白押しの状況の中で、建築の現場では、若手技術者の人材不足が大きな問題となっています。

当社は、建設業界の技術者派遣に特化し、建築現場との関係を深化させながら成長を重ねてまいりました。常に現場の声に耳を傾け、そのニーズに応えることで建設業界全体を支えるという思いを全社員が共有し、積極的な成長戦略を展開しています。現在当社が推進している中期経営計画においても、人材の大量採用と育成による在籍技術者数の拡大を引き続き経営戦略の中心に据えて、事業基盤の飛躍的な拡大を目指しています。

多くの若者が夢をもって集う場所。夢真グループはその理想に向けて、さらなる成長を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年5月  
代表取締役社長

佐藤 大央





代表取締役社長 佐藤 大央

### Q まずは、新たに代表取締役社長に就任されたの 抱負をお聞かせください。

当社が中核事業として展開する建築技術者派遣の特徴は、登録型の一般派遣とは異なり、人材を当社の正社員として採用し、また、派遣先を建築の現場に特化することで雇用の安定と高い利益率を実現しています。当社はこうした選択と集中を実行してきたことで、建設業界において高いブランド力を築くことができました。2015年12月に代表取締役社長に就任してからも、私としては、これまでのビジネスモデルを確実に踏襲するとともに、グループの結集力をより高めることで、さらなる成長を目指してまいります。

建築技術者の不足が課題の建設業界において、大量の若手建築技術者を抱える当社への期待は、さらに高まるものと思われます。そうした環境下で新社長として夢真グループを牽引し、建設業界の発展を支えていくことが、私の使命と考えています。

### Q 現在の事業環境をどのように捉えて いらっしゃいますか。

現在、建設業界において、ゼネコン各社が抱える技術者の「高齢化」「若手不足」の問題は、今後の首都圏を中心とした再開発ラッシュや2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック関連工事などの影響で、さらに深刻化の様相を呈しています。また、東京オリンピック・パラリンピック後もこの状況が緩和されることはなく、構造的な課題として認識する必要があります。

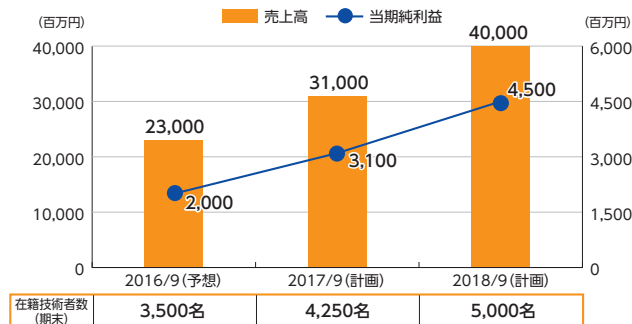
当社が展開する技術者派遣事業は、この大きな課題のソリューションとしてますます需要が拡大していくと思われれます。当社としましては、現在推進している中期経営計画に則り、在籍技術者の拡大を進めています。

### Q それではその中期経営計画の内容について お教えてください。

現在推進中の中期経営計画は、当2016年9月期を初年度とする3ヶ年計画です。建築技術者派遣事業の飛躍的な拡大を目指し、徹底した人材採用、営業力の強化によって、首都圏の建築現場を中心とする旺盛な人材ニーズに対応し、業容拡大を図ってまいります。現在の環境下において、建築現場への若手人材の派遣ニーズは、高い水準で継続するものと見込んでおり、そのニーズに応えるべく、人材の採用とその育成に注力してまいります。これらの施策によって、計画最終年度の2018年9月期には売上高400億円、親会社株主に帰属する当期純利益45億円を目指します。

具体的な人材の採用目標ですが、年間2,000名以上の採用を目指し、圧倒的な業界No.1企業へと躍進してまいります。前期（2015年9月期）は、全産業で人材の採用が積極化した厳しい採用環境において、実に1,702名の新人技術者の採用を実現しました。これは、当社の採用力の向上が大きな要因であり、また、東京丸の内の新本社を採用の拠点としたことも奏功しています。

## ■中期経営計画数値目標の推移



### Q 中期経営計画の進捗状況は いかがでしょうか。

計画1年目の進捗については、概ね計画通りに進んでいます。建設業界は、4～6月に需要が一時的に落ち込むため、特に3月は採用人数を限定する政策をとりましたが、上半期で918名の採用実績（前年同期比213名増）となっています。5月以降再度採用を加速させてまいります。また、今年度の注力ポイントとして、利益率の向上を掲げています。前期の第3四半期において、新人の稼働率を高める低単価戦略を展開したことで、利益率の低下が見られたため、早期の改善に着手し、すでに営業面においてその成果が表れています。

### Q 在籍技術者拡大のための人材育成について お聞かせください。

当社では、人材の採用とともにその育成にも注力し、在籍技術者5,000名を目指しています。前期末に2,760名に増加した技術者数は、当第2四半期末には、さらに2,943名にまでに拡大しました。定着率の向上も着実に進んでいると言えます。

特に建設業界未経験の人材や文系出身の新卒者を含め、大量採用を実施しているため、社員のキャリアアッププランを拡充し、様々な研修や講習会などを行って

ます。また、派遣という仕事ですので、小規模の派遣先では、当社から1名で現地に入る社員も多数います。そうしたスタッフが孤独にならないように、本社でのコミュニケーションによるフォローアップ研修を展開しています。また、会社として様々なイベントを実施したり、サークル活動を奨励して、夢真グループとしての横のつながりを強化しています。建築の現場は過酷な職場と思われがちですが、当社の提供する施工管理業務とは肉体労働ではなく、むしろ現場で大切にされることが多い業務です。そのため女性技術者の数も大きく拡大しています。定着率の向上には、個々人のスキルアップとともに、グループとしての一体感が大切だと感じています。

### Q 最後に株主の皆様へのメッセージを お願いいたします。

昨年当社は、アメリカの経済誌「Forbes」のアジア版「Forbes Asia」から「アジアの売上10億ドル以下の優良企業200社リスト」に選出され、その表彰式に出席してきました。世界には独自の事業戦略をもって成長している企業が多数あります。夢真のビジネスモデルは、そうした優良企業に伍しても特筆すべくものと感じました。社長1年目としてこのビジネスモデルをさらに成長させ、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、ますますのご支援を賜われますようお願い申し上げます。



### インタビュー紹介

かのうち あやこ  
叶内 文子

プロフィール  
フリーアナウンサー。証券アナリスト。ラジオNIKKEIなどで経済情報番組等に出演中。多くの個人投資家の支持を集めています。

# 上半期の事業の概況と下半期の見通しについて

## ハイライト

- 建築技術者派遣事業にて、売上高 20四半期連続2ケタ増収
- 建築技術者派遣およびエンジニア派遣事業ともに採用人数が堅調に推移
- 売上総利益率が想定どおり順調に回復

## 事業の概況

(百万円)

	2015年9月期 第2四半期累計	2016年9月期 第2四半期累計	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	10,955	11,195	+ 240	+2.2%
営業利益	1,271	1,211	△ 59	△ 4.7%
経常利益	1,435	1,238	△ 196	△ 13.7%
四半期純利益	807	831	+ 24	+3.0%
建築技術者採用実績	705 人	918 人	+ 213 人	+ 30.2%
第 2 四半期末技術者数	2,446 人	2,943 人	+ 497 人	+ 20.3%

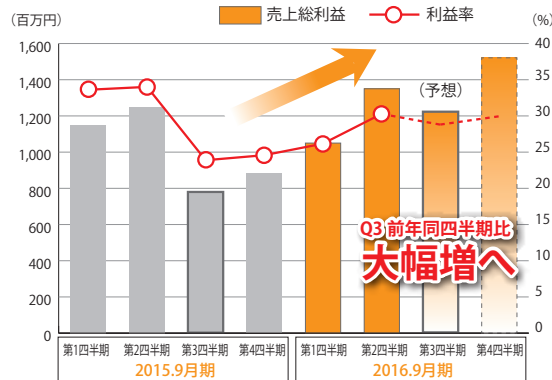
当社グループは、建設業界および製造業界を中心とした「高付加価値の人材ビジネス」に経営資源を集中させるべく、人材の確保に注力してまいりました。その結果、当上半期の売上高に関しましては、技術者の増員に起因した建築技術者派遣事業およびエンジニア派遣事業の伸張により11,195百万円となりました。前期にて子育て支援、介護および総合建設事業あわせて1,662百万円を計上していましたが、建築技術者派遣およびエンジニア派遣事業の増収により、その差額分をカバーし、前年同期比2.2%の増収となりました。

上半期の営業利益に関しましては、建築技術者派遣事業およびエンジニア派遣事業において、採用コストが上昇したこと、ならびに建築技術者派遣事業にて、前第3四半期に実施した期間限定の低単価戦略により一時的に売上総利益率が低下したこと等によって、前年同期比4.7%減益の1,211百万円となりました。

## 下半期の見通し

前第3四半期に低下した売上総利益率は、当期に入って大きく改善しており、派遣単価の回復による売上総利益率の改善は下半期も継続する見通しです。第3四半期(4~6月)は建設業界の端境期にあたるため、当第2四半期と比較し微減する計画ですが、前年同四半期比では大きく改善する予定です。また採用に関しては、目標である2,000人に向け、5月以降毎月200人ペースでの採用を計画しています。

### ■ 建築技術者派遣事業の利益の推移



## アジアの優良企業200社リスト選出の表彰式に出席

当社は、2015年7月、世界有数の経済誌「Forbes」のアジア版である「Forbes Asia」が毎年選出する、「アジアの売上10億ドル以下の優良企業200社リスト」(Asia's 200 Best Under A Billion) に選出されました。アジア太平洋地域で年間500万ドルから10億ドルの売上高がある上場企業17,000社の中から、過去3年間にわたり堅実な収益性と成長性を維持した企業を選考し、200社が選出されます。日本企業では8社が選出され、その中の1社として当社が選

ばれました。同年11月2日にマレーシアのクアラルンプールで表彰式が執り行われ、当社の社長である佐藤（当時専務取締役）が出席しました。

また、「Forbes」の日本版「Forbes JAPAN」2016年2月号（2015年12月25日発売）には、2015 Forbes Asia Best Under A Billionの企業として、当社の紹介記事が大きく掲載されました。



Asia's 200 Best Under A Billion 表彰式（マレーシア・クアラルンプール）



「Forbes JAPAN」2016年2月号の当社掲載記事

## 社員の充実した生活をサポート

当社は、人材の採用と育成を事業の中核と位置づけ、継続的に注力しています。人材の育成には充実した研修制度を整え、社員のキャリアアップによる生産性の向上を推進しています。また、建設業界未経験の新人でも安心して業務を遂行できるように、研修以外にも定期的なヒアリングを実施し、不安解消に努めています。さらに、サークル活動を奨励し、多数の社員同士が人間関係を深めることで、充実した生活のサポートを提供しています。



野球部（夢真ヴァルカンズ）



登山部

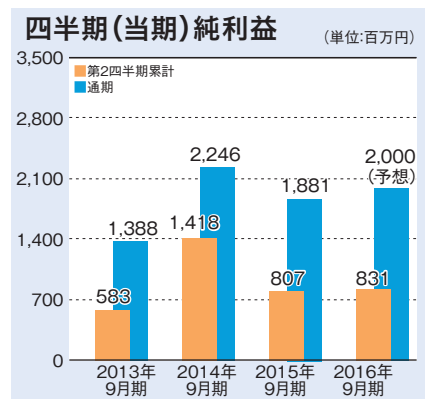
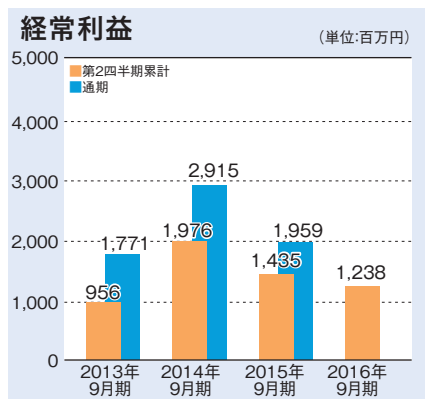
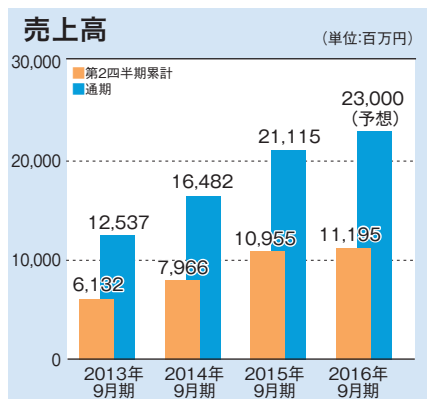


ボウリング部

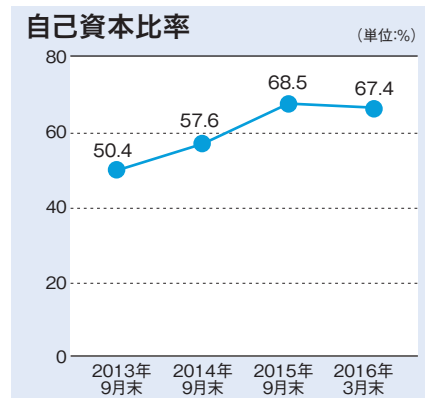
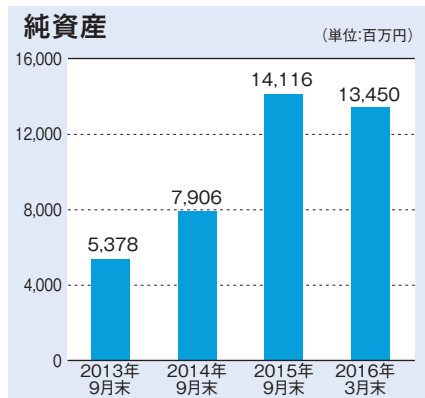
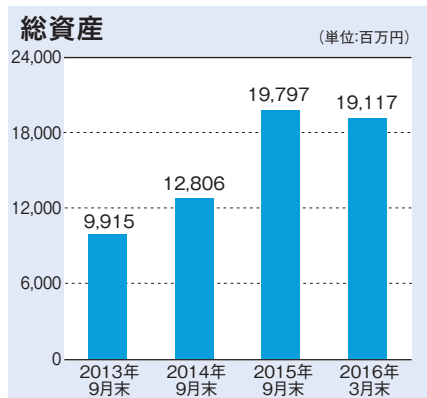


英語勉強会

# 財務ハイライト



\*経常利益の2016年9月期通期予想は開示しておりません。



## 売上高

売上高は、派遣需要の旺盛な推移を背景として、技術者の増員に起因した「建築技術者派遣事業」および「エンジニア派遣事業」の伸張により、前年同期比240百万円(2.2%)増加の11,195百万円となりました。

## 営業利益・経常利益・四半期純利益

営業利益は、「建築技術者派遣事業」および「エンジニア派遣事業」において、採用コストが上昇したことにより、前年同期比59百万円(4.7%)減少の1,211百万円となりました。経常利益は、営業利益の減少により前年同期比196百万円(13.7%)減少の1,238百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比24百万円(3.0%)増加の831百万円となりました。



## 連結貸借対照表

(単位:千円)

区 分	当第2四半期 2016年3月31日現在	前 期 2015年9月30日現在
<b>[資産の部]</b>		
流動資産	<b>14,366,455</b>	<b>15,209,943</b>
固定資産	<b>4,751,239</b>	<b>4,587,592</b>
有形固定資産	1,360,664	940,255
無形固定資産	321,690	348,235
投資その他の資産	3,068,884	3,299,101
資産合計	<b>19,117,695</b>	<b>19,797,536</b>
<b>[負債の部]</b>		
流動負債	<b>4,289,436</b>	<b>4,031,306</b>
固定負債	<b>1,378,069</b>	<b>1,649,245</b>
負債合計	<b>5,667,505</b>	<b>5,680,552</b>
<b>[純資産の部]</b>		
株主資本	<b>12,978,626</b>	<b>13,638,911</b>
その他の包括利益累計額	△ 93,376	△ 83,373
新株予約権	<b>19,667</b>	<b>19,306</b>
非支配株主持分	<b>545,272</b>	<b>542,139</b>
純資産合計	<b>13,450,189</b>	<b>14,116,984</b>
負債純資産合計	<b>19,117,695</b>	<b>19,797,536</b>

## 連結損益計算書

(単位:千円)

区 分	当第2四半期累計 自 2015年10月 1日 至 2016年 3月31日	前第2四半期累計 自 2014年10月 1日 至 2015年 3月31日
売上高	<b>11,195,615</b>	<b>10,955,595</b>
売上原価	8,056,704	8,039,268
売上総利益	<b>3,138,911</b>	<b>2,916,327</b>
販売費及び一般管理費	1,926,945	1,644,537
営業利益	<b>1,211,965</b>	<b>1,271,789</b>
営業外収益	115,542	211,465
営業外費用	88,886	47,687
経常利益	<b>1,238,621</b>	<b>1,435,568</b>
特別利益	1,382	1,585
特別損失	529	31,363
税金等調整前四半期純利益	<b>1,239,473</b>	<b>1,405,789</b>
法人税、住民税及び事業税	363,744	486,443
法人税等調整額	△ 2,585	69,993
非支配株主に帰属する四半期純利益	47,133	42,231
親会社株主に帰属する四半期純利益	<b>831,181</b>	<b>807,121</b>

### 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べて679百万円減少し、19,117百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少1,246百万円、受取手形及び売掛金の増加571百万円、有形固定資産の増加420百万円、投資有価証券の減少232百万円等によるものです。

### 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて666百万円減少し、13,450百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益831百万円、剰余金の配当による減少1,491百万円等によるものです。

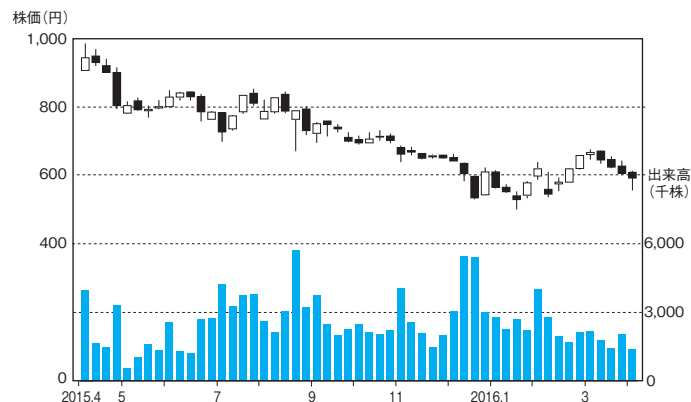
■ 発行可能株式総数	160,000,000株
■ 発行済株式総数	74,573,440株
■ 株主数	33,185名

## ■ 大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
佐藤 眞吾	16,425	22.03
有限会社佐藤総合企画	14,844	19.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,006	2.69
BANQUE PICTET AND CIE SA AC 10 PCT DIVIDEND	900	1.21
深井 英樹	880	1.18
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	739	0.99
佐藤 淑子	688	0.92
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS-UNITED KINGDOM	571	0.77
崎山 佳香	535	0.72
崎山 昭仁	398	0.53

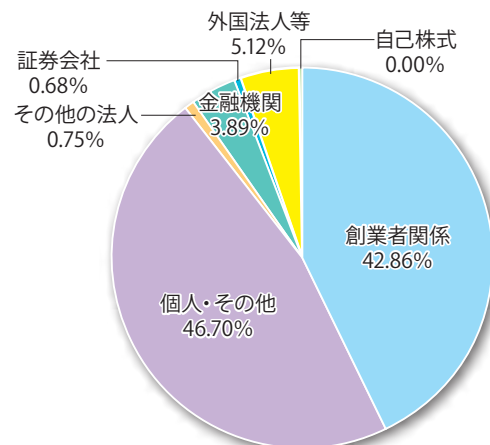
※持株比率は自己株式(86株)を控除して計算しております。

## ■ 株価の推移

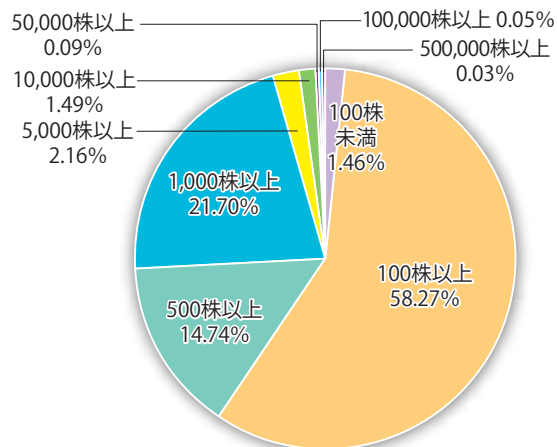


## ■ 株主分布状況

### 所有者別分布状況 (株式数比率)



### 所有株数別分布状況 (株主数比率)



社名	株式会社 夢真ホールディングス	上場証券取引所	東京証券取引所 (JASDAQスタンダード市場)
本社	東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビルディング22F	証券コード	2362
設立	1980年1月	役員	
代表者	佐藤 真吾	代表取締役会長	佐藤 真吾
資本金	8億514万円	代表取締役社長	佐藤 大央
従業員数	連：4,204名、単：3,121名	取締役	小野 定信
事業内容	建築技術者派遣事業 エンジニア派遣事業 人材紹介業	取締役	楠原 正人
		取締役	鈴木 豊彦
		社外取締役	坂本 朋博*
		社外取締役	小田 美紀*
		社外監査役	高橋 宏文*
		社外監査役	六川 浩明*
		監査役	松本 幸夫

※東京証券取引所の定める独立役員

## IR伝言板

2016年1月以降のIRスケジュールと今後の予定をお知らせいたします。

2016年2月27日	個人投資家向け会社説明会 (東京)
2016年3月11日	個人投資家向け会社説明会 (滋賀)
2016年3月15日~18日	香港・シンガポール・台湾IR
2016年3月26日	個人投資家向け会社説明会 (東京) ※子会社 夢テクノロジーの説明会です。
2016年4月5日	個人投資家向け会社説明会 (大阪)
2016年4月25日	個人投資家向け会社説明会 (札幌)
2016年5月18日	2016年9月期 第2四半期 決算説明会
2016年5月19日	個人投資家向け会社説明会 (東京)



2016年2月27日の個人投資家向け会社説明会の様子と解説する佐藤社長

### 今後の予定

6月中に北米および欧州でIR活動を実施いたします。また、日経IR・投資フェア2016 (2016年8月26日、27日) に例年通り参加の予定です。

## ホームページのご紹介



当社ホームページの「株主・投資家情報」では、過去の決算短信などのIR情報を見ることができます。

新卒・中途採用強化の一環として「採用ページ」の充実を常に図っています。

ホームページ  
<http://www.yumeshin.co.jp/>

### 株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日
定時株主総会	毎年10月1日から3カ月以内に開催
基準日	定時株主総会：毎年9月30日 期末配当金：毎年9月30日 中間配当金：毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
証券コード	2362

#### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社にてお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 (通話料無料)	フリーダイヤル 0120-782-031
公告の方法	当社のホームページに掲載します。(http://www.yumeshin.co.jp/)ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。

## 株式会社夢真ホールディングス

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビルディング22F



古紙配合率70%再生紙を使用しています

